

# 生涯學習情報誌

Life Learning

8 2019  
Aug.  
NO.348



募集  
開始

2019(令和1)年度

# 博士号

## 取得支援事業

生涯学習開発財団は、「人間は感動する心を失わず、何ごとかを学び続ける限り、年齢にとらわれない生き方をすることができる」という理念のもと1983年に設立されました。

平均寿命が延びる今、定年後も学習を継続し、社会へ貢献し続ける中高年の存在は、日本社会にとって大きな支えとなります。

財団では、現在博士号の取得を目指す50歳以上の方々を対象に、2011年度から支援事業を行っております。この取り組みを通して、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作り貢献することをめざしています。

本事業は、国籍や性別を問わず、また、研究領域は文系・理系を問いません。独創的で社会的な意義のある研究を行い、博士論文を執筆中あるいは提出が予定されているすべての方に門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

### ■ 採用予定人数

特に人数は定めません。

### ■ 助成金の支給

- ・支給金額は一人あたり年間50万円
- ・支給期間は1年
- ・支給日は2020年3月

### ■ 応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上（性別、国籍、所属を問わない）
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程（博士後期課程を含む）に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者、もしくは博士論文の一部をすでに作成した者

- ・日本国内の大学で博士号を取得予定の者
- ・当財団のホームページ及び情報誌にて、氏名・年齢・研究タイトル・写真の公開を了承する者

### ■ 応募方法

#### (1) 提出書類

- ・指定申請書
- ・身元証明書
- ・研究計画書
- ・推薦書 ほか

詳細は募集要項でご確認ください

#### (2) 応募締切日

2019年12月11日(水) 必着

### ■ 選考

提出書類および面接により選考

お問合せと募集要項の請求は下記まで



一般財団法人 生涯学習開発財団 博士号取得支援事業部  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館9階 TEL 03-3508-4551  
募集要項・申請書は <http://www.gllc.or.jp> E-mail [hakushi@gllc.or.jp](mailto:hakushi@gllc.or.jp)

6/22~7/1

# ハーバード大学クロコディロス 2019日本公演

## TAEKO-SAN

## ARIGATO!!



6月22日〜7月1日、財団の国際交流事業として、ハーバード大学の男声ア・カペラグループ（ヘクロコディロス）の2019日本公演が行われた。まずは都内で、歓迎パーティー、宿泊したUNPLANDでのミニステージ、恒例の倶楽部グリーとのジョイントコンサート（帝京平成大学沖永記念ホール）、コーチ・エイ主催コンサート（イタリア文化会館アニエッリホール）などで、美しいハーモニーと楽しいパフォーマンスを披露してくれた。

彼らは、今年1月のLレメンバーズ交流会にビデオクリップで登場し、「今年も日本公演を楽しみにしている」とメッセージをくれたが、その数日後に財団前理事長・松田妙子が急逝。そのビデオクリップを制作した、今年のツアーマネージャーでもある2人は、「とても残念だが、妙子さんは明るく賑やかな雰囲気が好きだった。今夜は『Sunny Side of the Street』という陽気な曲にタップダンスも入れて、30年間支援してくれた彼女への感謝の思いを捧げたい」と話してくれた。

6月28日から3日間は高知県高知市を訪問。国際的な人材教育を目指す高知国際中学校では、ミニコンサートのほか、生徒たちと英語によるゲームや交流を行った。高知西高校では生徒とコラボして、開校記念日を祝った。また高知芸術祭プレイベントとして、市民の交流・学習拠点であるオーテピアの各フロア、商店街、牧野植物園などでステージとともに交流が図られた。



↑コンサート後のパーティーで交流



好評で10回目

### コーチ・エイコンサート



↑ツアーマネージャーのジェリー&ヒューと



↑コーチ・エイ伊藤会長らとメンバーで記念撮影



活

動

紹

介

# 生涯学習開発財団

## 国際交流事業



←↓→各会場で、観客の中から素敵な女性をステージに連れ出し「What's your name?」とアプローチ。定番的一幕。



↓高知国際中学校での英語交流とミニコンサートはテレビ高知が取材し、夕方のニュースで放映された。



↑早稲田大学OB倶楽部グリーのステージ



↑リハーサルにて、コロコ、グリーの両メンバーが混ざって記念撮影



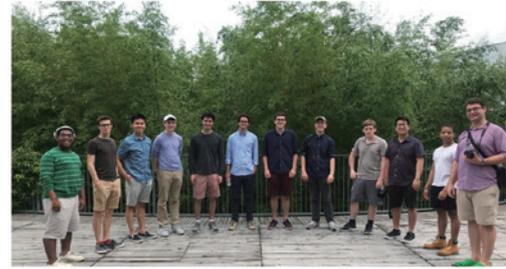
今年は高知県で  
たくさん歌って交流してきました



↑サプライズで高知西高校の開校記念日を祝った。



↑高知城追手門にて



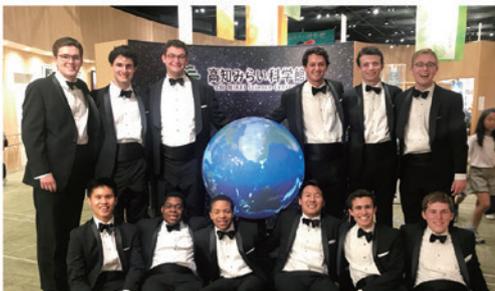
↑屋外ステージを下見も、雨で屋内に変更



↑坂本龍馬とハーバード大生が交流？



↑高知県の岩城副知事を訪問。



↑メンバーも楽しんでいた高知みらい科学館。



↑↓→オーテピアと周辺でなんと9ステージ。



↑Tシャツ販売も手伝いました。



財団後援

メンタルケア学術学会 2019 公開シンポジウム

2019年5月26日(日)  
大妻女子大学千代田キャンパスにて

# 「心理的支援の多様化とメンタルケア」

財団協賛会員のメンタルケア学術学会(別府武彦理事長)が主催し、生涯学習開発財団が後援する2019公開シンポジウムが開催され、全国から約80名が参加した。企業や学校など現代社会のさまざまなステージで課題となっているメンタルヘルス。産業領域における健康経営の実践と工夫、学校教育領域における運動を通じた健康増進活動、高齢者福祉領域における心身のケアなどについて、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

## ■企業価値・業績向上のカギとなるメンタルケア

基調講演は紺野春菜氏(経済産業省 商務・サービスグループヘルスケア産業課 健康経営担当係長)による「健康経営の推進について」。経産省は超高齢社会の課題解決の重要な柱として、健康寿命の延伸を上げていく。2015年から東京証券取引所と共同で、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業を「健康経営銘柄」として選定し、公表している。また、2017年からは「健康経営優良法人認定制度」も実施していて、今年の参加企業は3000社以上と急増している。

企業にとって健康経営・健康投資は、社員の健康増進だけでなく、業績や企業価値向上を図るための戦略的からも不可欠となった。経産省が推進する理由もそこにある。日経新聞グループなどが運営する「スマートワーク経営研究会」のレポートによると、健康経営を実施する企業では、導入から2年程度を経て利益率が上昇する傾向にあるとのこと。



↑紺野氏 ↑山鳥氏

←左から、竹中氏、植田氏、酒井氏

## ■子供、労働者、高齢者にも、新たな動き

パネルディスカッションでは、指定討論者の山鳥圭輔氏(大妻女子大学人間関係学部准教授)が、メンタルヘルスは現代社会における全人的課題であるとして、学校、企業、医療福祉の3分野でどのような取り

組みが始まっているか聞きたいと投げかけた。

竹中晃二氏(早稲田大学人間科学学術院教授)は、「学校ポジティブ教育」に取り組み。ABC仮面が導く各人の「強み」を認識し伸ばすプログラムで、一般社会にもぜひ活用してもらいたいという。

健康経営のコンサルタントで社労士でもある植田健太氏は、近年の防災事業を踏まえ、企業と管理者の安全配慮義務が強化された。生産性向上の面からも、メンタルケアの軽視はリスクだと指摘する。

酒井咲子氏は、社会的困難を抱える高齢者や障害者に行う「ソシオエステティック」の普及に取り組み。医療や福祉スタッフと連携してケアにあたり、脳の活性化やリハビリの一助となっている。

## ■メンタルケアを学ぶ機会をより多くの人に

医療福祉情報実務能力協会は、2006年から生涯学習開発財団の協賛会員として、実務能力資格の「メンタルケア心理士」「准メンタルケア心理専門士」「メンタルケア心理専門士」「メンタルケアカウンセラー」を認定している。2018年からは、より多くの人がメンタルケアを学べるよう、文部科学省後援の「こころ検定」を実施。中学校卒業レベルの入門編から大学で学ぶ専門領域まで4段階の級がある。

●特定非営利活動法人  
医療福祉情報実務能力協会  
(メンタルケア学術学会)  
〒160-0023  
東京都新宿区西新宿3-2-27  
オーチュー 第7ビル4F  
TEL : 03-5326-7784  
URL : <http://www.medin.gr.jp>  
2006年 設立  
2006年 財団資格認定団体登録



代表者・理事長の別府武彦氏